

平成30年度

大阪市立大学大学院法学研究科法曹養成専攻入学者選抜試験

【2年短縮型】

法律科目試験問題：民事訴訟法（配点：80点）

注意事項

- 1 机上に各自の「受験票」と「法科大学院全国統一適性試験受験票」を出しておくこと。
- 2 問題冊子は、監督者が「解答始め」の指示をするまで開かないこと。
- 3 問題冊子は、全部で2ページである。
解答用紙は、全部で8ページである。
問題冊子、解答用紙に脱落のあった場合には申し出ること。
- 4 解答用紙は切り離さないこと。
解答用紙は、8ページを超えて使用することはできない。
- 5 解答用紙の上部所定欄に、1ページには氏名、受験番号、試験の科目名を、2ページ以降は各ページに氏名を忘れずに記入すること。
- 6 解答は、第1問は1ページから、第2問は5ページから記入すること。
- 7 解答以外のことを書いたときは無効とすることがある。

(民事訴訟法)

第 1 問

Xは、Yに 300 万円を貸したが、この消費貸借契約（以下、「本件契約」という）において定めた弁済期限を過ぎてもYがこれを弁済していないと主張する。これに対して、Yは、本件契約の弁済期限までに 300 万円全額を弁済したと主張する。これを前提に、以下の各問に答えなさい。

(配点：40 点)

問 1 Yは、Xを被告として、本件契約に基づく 300 万円の貸金債務の不存在確認の訴えを提起した。これに対して、受訴裁判所は、Yの請求を全部棄却する判決を言い渡し、それが確定した。この場合に生じる既判力の内容について述べなさい。

問 2 問 1 における判決確定後、Xは、Yを被告として、本件契約に基づく 300 万円の貸金の返還を求める訴えを提起した。この訴訟の第一回口頭弁論期日において、Yは、Xの請求を棄却する判決を求めたが、その際にはじめて、「本件契約は詐欺に基づくものである。よって、本件契約を取り消す」と主張した。このようなYの主張は許されるか。

(民事訴訟法)

第 2 問

Xは、Y会社が運営する高速鉄道の線路の周辺に居住する者である。Xは、この高速鉄道の運行により生じる騒音に悩まされていると主張する。これを前提に、以下の各問に答えなさい。

(配点：40 点)

問 1 Xは、Yを被告として、Yが高速鉄道の継続的な運行により発生させる騒音により現在および将来発生する損害の賠償を求めて訴えを提起した。Xの訴えは適法であるか。

問 2 Xは、Yを被告として、「Yは、Xの住居内に 65 ホン以上の騒音を到達させてはならない」旨の請求の趣旨を掲げ、訴えを提起した。Xの訴えにより、請求は特定されているか。